

兵庫ゆかりの絶滅危惧植物の生きざまを探る

兵庫県にはおよそ2500種の維管束植物が分布していますが、その3割は絶滅が危惧されています。絶滅危惧植物の保全を考えるためには、まず当該植物のことを良く知る必要があります。このような問題意識から、絶滅危惧植物についての研究を進めています。

オチフジの生活史

オチフジ (*Meehanian montis-koyae* Ohwi) はシソ科の多年生草本です。初め和歌山県の高野山で見つかったことから、*montis* (=山)-*koyae* (=高野) との名前がつけましたが、その後兵庫県の西播磨地域にも分布していることがわかってきました。ところが高野山のオチフジは河川改修工事の折に絶えてしまったようで、現在見つけることはできません。いま確実にオチフジをみることができるのは、西播磨地域だけなのです。



図1. オチフジの花

ところがオチフジについては、分布に限られることもあって研究が進んでいませんでした。2倍体であることはわかっていましたが、どんな昆虫が花を訪れるのか、種子はちゃんとできているのか、一年を通じてどんな生活を送っているのかは不明でした。そこで定期的に自生地に通い、交配実験やコドラート調査を行って基本的なデータを集めることとしました。

オチフジは4月下旬から5月中旬にかけて開花します。開花一か月後の6月下旬までには種子を完熟・散布させ、その後ロゼット (=地上に出ている葉がついた部分) は徐々に姿を消していきます。秋になってオチフジの生育場所を覆う林の落葉樹の葉が散り落ちて林床が明るくなるころ、新しいロゼットが出現し成長していきます。そして3月下旬ころから花芽をつけはじめて開花に至る。というライフサイクルを繰り返していることがわかってきました。開花時に観察していると、ツヤハナバチの仲間が花を訪れることもわかりました。ただし頻度は高くありませんでした。集団によっては花の中にハネカクシの仲間がおり、産卵場所や交尾の場所として使用されていることもありました。オチフジは希少山野草として価値が高いことから盗掘の被害にあいやすく、多くの生育地が沢沿いの礫地にあることから河川改修工事等の影響を受けやすい植物です。そのため兵庫県の

レッドデータブックではAランク、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類に指定されています。いつまでもオチフジが西播磨で見ることができるよう、見守って行く必要があります。

タジマタムラソウとその送粉者

タジマタムラソウ (*Salvia omerocalyx* Hayata シソ科) は、鳥取県東部～兵庫県但馬地域～京都府丹後半島にかけての日本海側にのみ分布が知られる固有種です。兵庫県レッドリストC、環境省レッドリスト絶滅危惧II類に指定されています。5月から6月の間に濃青紫色の花を咲かせます。

どんな動物がタジマタムラソウの花を訪れ、花粉を媒介しているのかを調べてみよう、自生地を何箇所か訪れて観察を行いました。その結果、タジマタムラソウの群生地にはクロマルハナバチ、クマバチ、ツヤハナバチの仲間、コハナバチの仲間、ヒラタアブやコシボソハナアブの仲間等、さまざまな昆虫が訪れているこ



図2. タジマタムラソウに訪花するクロマルハナバチ

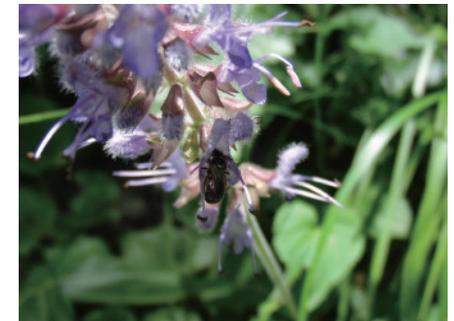


図3. タジマタムラソウに訪花するツヤハナバチの仲間

とがわかりました。近縁種と比較して花期が早いため、送粉者の種類も異なるようです。



兵庫県産植物の分類学的研究プロジェクト

代表者：高野温子

分担者：黒崎史平、迫田昌宏 (近畿植物同好会)

協力者：泉鐘一郎 (豊岡市)、菅村定昌 (豊岡市)、水谷高典 (京丹後市)

財源：科研費基盤C

ひょうご科学技術協会